

「吉野川水系 河川整備計画(素案)」の概要

○河川整備の基本理念

吉野川及び旧吉野川・今切川における河川整備の基本理念

安全で、安心できる吉野川の実現

- 水害から人命と財産を守り、人々が安心して暮らせる地域の早期実現を目的とし、各種治水対策を展開
- 既設の河川管理施設の機能維持と管理の高度化
- 渇水被害の少ない安心できる川づくり



河川本来の自然環境を有する吉野川の実現

- 良好な自然環境・景観等を保全
- 吉野川が本来有するレキ河原やエコトーン、清浄な吉野川の流れ等自然環境の保全・再生を図るための施策を展開



地域の自然・景観・社会環境に調和し個性ある吉野川の実現

- 自然体験活動や環境学習等の河川空間利用を創出するための施策を展開



○計画の対象区間と対象期間

対象区間：吉野川水系の直轄管理区間
(大臣管理区間) 186.53km

対象期間：概ね30年



安全で、安心できる吉野川の実現

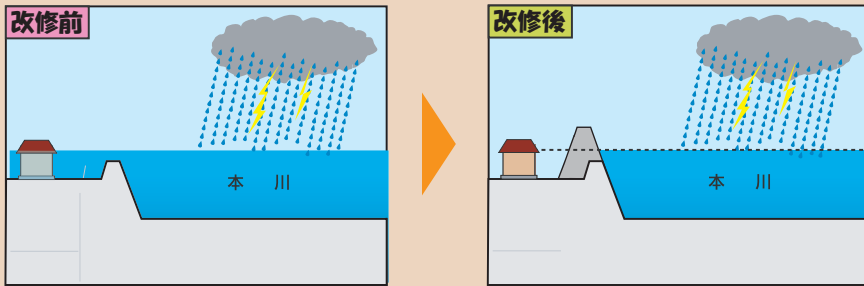
水害から沿川住民の人命と財産を守り、渇水にも対処することで、人々が安心して暮らせる地域を目指します。



■洪水への対応

戦後最大規模の洪水に対し、沿川地域住民の人命と財産を守り、人々が安心して暮らせる地域を早期に実現することを目的とし、基本方針で定めた目標に向け、既存ダムの有効活用も含め、段階的に整備を進めます。

築堤

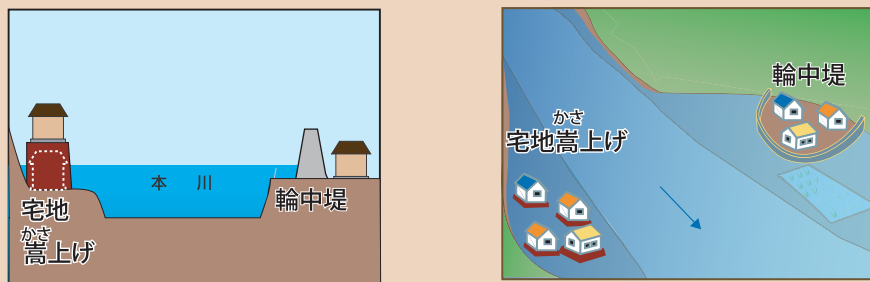


戦後最大の洪水

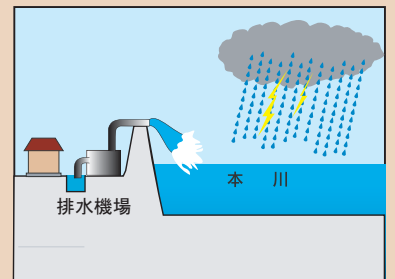


吉野川
平成 16 年 10 月 台風 23 号
旧吉野川・今切川
昭和 50 年 8 月 台風 6 号

輪中堤
嵩上げ



内水対策



■危機管理

市町のハザードマップ作成・公表を技術的に支援していきます。
また、災害時における水防活動や応急復旧の拠点等として防災ステーションを整備します。



■河川水の適正な利用

渇水被害の少ない安心できる地域を目指します。



渇水時における円滑な渇水調整の方法を協議し、迅速な対応に努めます。

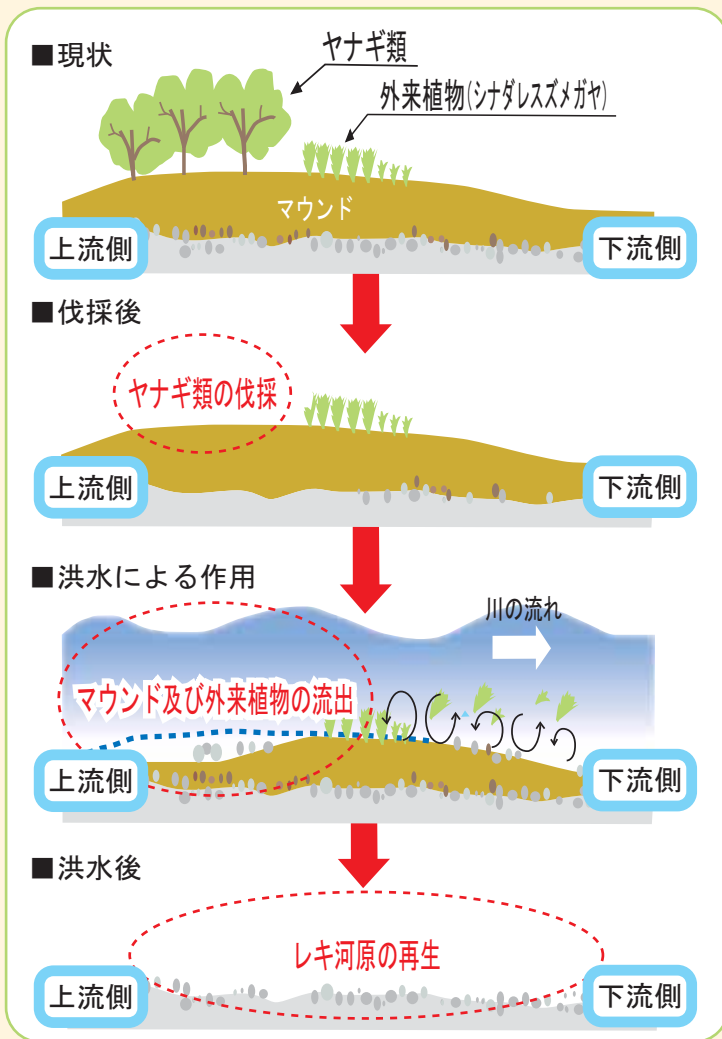
吉野川水系水利用連絡協議会の様子
(渇水への対応)

河川本来の自然環境を有する吉野川の保全・再生

良好な自然環境・景観等を保全し、吉野川らしい広いレキ河原等の自然環境の保全・再生を図っていきます。

■良好な自然環境・景観等の保全・再生

吉野川本来の姿である広いレキ河原や、多様な動植物の生息・生育環境となっている水際環境や瀬・淵、竹林、河口干潟などを保全・再生します。



吉野川らしい雄大な河川空間



水質調査



河口干潟の保全

カニ等の良好な生息場



河川の連続性の確保

魚道



竹林の保全

サギの営巣地

地域の自然・景観・社会環境に調和し個性ある 吉野川の創造



将来を担う子供たちの環境教育への積極的な支援や地域住民等との連携した河川愛護活動等を実施し、人と川、地域と川との共生関係を築いていきます。



■人と川とのふれあいの場の創出

適正な河川の利用が図られるように努め、関係機関や地域住民などと連携して貴重な水辺空間とのふれあいを体験できる施策を推進します。



遊歩道の整備事例

坂路のバリアフリーの整備事例



水辺の楽校（ふいふるパークみかも）

ダム湖空間についても、適正な利用を誘導するとともに、ダム湖周辺を憩いの場として提供することで、レクリエーション機能を高める施設の整備を実施します。



■川に親しむ取り組み



吉野川に対する関心を高めてもらえるように、人と川とがふれあえ、学べる活動を行っています。

「水防工法技術講習会」「吉野川の自然環境」「吉野川の洪水とゴミ問題」などをテーマとした流域講座を開催しています。

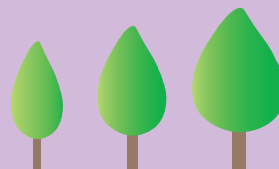


水生生物調査



総合学習の支援

維持管理



洪水などによる災害の発生を防ぐために、堤防・護岸などの河川管理施設の機能を十分発揮されるように、適切に維持管理を実施します。

■河川の維持管理

堤防・護岸などの河川管理施設については、洪水時に機能が維持されるよう、平常時において点検を実施し、必要に応じた補修を実施していく他、地域住民や関係機関と連携・協働により今後さらなる河川美化に努めます。



パトロール車による河川巡視



堤防除草



一斉清掃



■ダム の維持管理

統合管理により流域全体の効果的な流量調整を継続するとともに、堆砂対策や流木処理などを適切に実施し、ダム機能の確保を図ります。

流木の有効利用の一例



流木捕捉

ダム貯水池に流木止（網場）を設けている



回収、集積



例 植生基盤材に使用



例 破碎、チップ化



堆砂除去の状況（柳瀬ダム）

